

令和元年度 大田区立萩中小学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

児童数は284名で、12学級である。教員数は19名で、本校が初任校である教員が全体の約5割である。
 ①隣接している都立つばさ総合高等学校と区立立雲中学校との交流活動や連携した取組を行っている。
 ②学校自然園や萩中公園などの自然環境を生かした学習活動、登校班による集団登校や縦割り班活動、ボランティアによる学校支援が充実している。
 ③「平成31・32年度 大田区教育委員会教育研究推進校」として、研究主題「対話を高め、学びを深める児童の育成 ～授業マネジメントを核にして～」掲げ、令和2年度に研究発表会を開催する。その他、「理科教育推進拠点校」、「平成31(2019)年度子どもの生きる力を育むプログラム～大田区における特色ある教育の推進～事業実施校」、「東京都オリンピック・パラリンピック教育アワード校」であり、区内のモデル校としての役割を担っている。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	成果評価		学校関係者記入欄 コメント
			目標に対する成果指標	これまでの取組 今後の改善策	
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々のコミュニケーション能力の育成等を図っている。	保護者アンケート「児童は自分の考えを表現している」の肯定的な評価(4段階上位2位)の割合	3	◎保護者アンケート「児童は自分の考えを表現している」の項目では、4段階評価の上位2位の割合は、前年度75.4%から75.2%であった。 ・外国語指導員と外国語担当教員が連携を取り、年間計画に従い、計画的に進めることができた。担任と外国語指導員の事前打ち合わせ等の連携について検討する必要がある。 ・萩中小の地域材を使つての学習を積極的に取り入れている。海苔を作る授業や、多摩川の干潟を活用した授業を実施し、学習発表会やものづくりフォーラムで学習の軌跡を発表している。 ・毎日の授業でデジタル教科書を活用した授業を取り入れたり、児童にタブレットを使った学習をさせたりしている。デジタル化は、映像や写真をすぐに見せられるだけでなく、拡大することも容易なので子どもの思考を活性化させる一助になっている。 ・月1回、朝の時間に人権教育を各学年で必ず行い、人権担当が研修した内容はOJTとして、回覧や連絡会での報告が実施されている。また、今年から、人権集会を行い「にじいろの魚」の読み聞かせを行った。 ・萩中小学校では、10月から全校マラソンを週2回行ったり、縄跳びカードの取組をしたりと、全校で共通して取り組む運動を継続的にやっている。得意な児童と不得意な児童全員が意欲的に取り組めるように指導の工夫をしていく必要がある。 ・萩中対話タイムでは、テーマを理解してペアやグループ等に分かれて、意欲的に話し合いをすることができている。互いに自分の意見を相手に伝えようとするに対する抵抗感を減らすことができている。児童は萩中対話タイムの時間をとても楽しみにしている。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのみのつくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:90%以上		
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	3:85%以上		
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	2:80%以上		
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学び意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	保護者アンケート「子どもは、勉強が分かり、学力が付いている」の肯定的な評価(4段階上位2位)の割合	3	◎保護者アンケート「勉強が分かり、学力が付いている」の項目では、4段階評価の上位2位の割合は、前年度79.8%から84.5%となり、目標を達成することができた。 ・夏休みの三者面談では、萩中学習の記録や大田区学習効果測定の結果をもとに、児童一人一人のつまずきや、できていることについて話し合うことができた。 ・算数ステップ学習により、各単元の習熟状況を確認し、補習の必要な児童に指導することができた。また、算数ステップ学習シートにより、保護者にその様子を知らせた。 ・毎週放課後の算数補習、年6回の算数土曜日補習を通して、算数に戸惑っている児童に手厚く指導することができた。 ・授業改善推進プランを、各学年、各教科主任が発表し、全教員で成果と課題を確認した。また、ホームページや保護者会を通して、各学年の取り組みを丁寧に伝えた。 ・「対話力を高め、学びを深める児童の育成」をテーマに取り組んでいる校内研究では、対話活動に力を入れて取り組んだ。研究授業は、国語、道徳、社会、理科の4教科で取り組み、グループでの対話活動により、他者との学び合いの中で学びを深めることができるかを検証した。しかし、まだ学びの深まりや確かな学力への成果と言えぬ検証はできていない。引き続き、校内研究を通して対話活動による深い学びを研究していく。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:85%以上		
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	3:80%以上		
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	2:75%以上		
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	保護者アンケート「児童は元気よく挨拶をしている」と回答した割合(4段階上位2位)	3	◎保護者アンケート「児童は元気よく挨拶をしている」の項目では、4段階評価の上位2位の割合は、前年度78.8%から78.4%であった。 ・毎月の生活指導主任会や小中一貫教育の日に近況を報告し合っている。学校間で話し合う必要があった際にもすぐに、学校間で連絡を取り合って解決している。 ・道徳授業地区公開講座を行い、道徳の授業の理解を保護者にも発信している。また、事前に指導案を道徳主任が確認して改善している。 ・調査後、該当事項に当てはまる児童と面談を行う。面談を行うことで児童の悩みなどを詳しく知ることができている。 ・毎週の生活指導連絡会で各クラスからの報告を行って、全教員に周知している。 ・生活指導連絡会で気になる児童の報告を行い、全職員に周知している。不登校を訴えた児童には管理職が面談などを行っている。 ・「萩中10Iに約束」は児童が完全に理解しているため、児童同士で注意する環境ができている。そのため、約束を守れなかった児童はすぐに担任に連絡が行き、早い段階で指導ができているので、規範意識を育てている。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:80%以上		
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	3:75%以上		
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	2:70%以上		
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	保護者アンケート「教職員は、健康で安全な生活を送るための指導をしている」の肯定的な評価(4段階上位2位)の割合	4	◎保護者アンケート「健康で安全な生活を送るための指導をしている」の項目で、4段階評価の上位2位の割合は、前年度97.0%から95.6%であった。 ・昨年度の体力テストの結果から課題を分析し、投力や柔軟性を高める活動、を休み時間に取り入れたことで、慣れとともにコツを掴むことができ、記録向上に繋がった。 ・2学期から週2回の5分走、短縄跳びカードの実施により、運動習慣を確立し、体力向上へと繋げることができた。 ・生活リズム調査を学期ごとに1週間行うことで、児童の生活習慣を把握し、指導や改善に当たることができた。また、望ましい生活習慣への意識が高まった。 ・オリンピックやパラリンピアンを招き、講話や実技体験を通して交流することで、夢や希望をもつと素晴らしいことを知るとともに、「ボランティアマインド」「障害者理解」「スポーツ志向」等の精神を養うことができた。また、東京2020大会への参加の意識を高めることができた。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:95%以上		
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	3:90%以上		
		【追加】オリンピック・パラリンピック教育アワード校として、オリンピックの招へいや、体育授業地区公開講座等を開催し、児童の運動への関心を高める。	2:85%以上		
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりたい。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	保護者アンケート「教職員は、子どもの学習意欲を引き出す手だてを工夫している」の肯定的な評価(4段階上位2位)の割合	4	◎保護者アンケート「教職員は、子どもの学習意欲を引き出す手だてを工夫している」の項目で、4段階評価の上位2位の割合は、前年度94.0%から93.1%以上であった。 ・保護者からの授業評価を校内で回覧し、全体で確認し、各教員で授業改善に取り組むことができた。 ・授業改善セミナーの研修で各教科担当が得た情報を職員会議で報告し、つまずきやすい問題を教員全員で実際に解いて、改善方法を検討することができた。 ・各種研究発表を参観した教員が自校の連絡会で報告したり、校内研修を開催したりし伝達することができた。 ・サポートルームの先生、カウンセラー、特別支援コーディネーター、養護教諭、各担任、管理職情報交換を行うことができた。また、具体的な個別の支援方法を提案したり、職員会議で共有したりして、細かな支援に取り組むことができていない部分もあった。 ・環境整備部から提案された掲示物や教材を準備し、実際に授業や研究授業で生かすことができた。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:95%以上		
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	3:90%以上		
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	2:85%以上		
プラン6 学校・家庭・地域と連携した教育の実現を目指す。	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	保護者アンケート「学校は、教育方針や教育活動を保護者に分かりやすく伝えている」の肯定的な評価(4段階上位2位)の割合	4	◎保護者アンケートにより、「教育方針や教育活動を保護者に分かりやすく伝えている」の項目で、4段階評価の上位2位の割合は、前年度97.3%から95.6%であった。 ・学校ホームページで学校生活の様子を毎日記事にして更新した。また、トップページの掲示板で行事の事前告知も行うなど情報発信に努めた。 ・年3回の地域教育連絡協議会では、学校の取組、成果を報告し、意見を伺った。年度末には評価を依頼し、次年度の教育活動に活かしている。また、保護者アンケートを実施し、その結果も反映させている。アンケートの回収率は99%である。 ・学校支援地域本部を中心に蜂蜜プロジェクト、図書やガーデニングなどのボランティア活動、ワク夏への支援が充実していた。またさらに地域力を生かした活動として3年の海苔付け、多摩川、地域の工場、6年の歴史の学習、各学年の保、小、中、高との交流活動を行った。今年度もオリパラ教育アワード校として多くのオリンピックやパラリンピアンを招き、講演会や実技体験を通して学習を深めることができた。地域の教育力を生かすと同時に、子どもたちが地域に出て様々な発信をする機会を充実させる。 ・緊急連絡システムの登録者を増やすためにテストメールを学期ごとに配信した。保護者会でも取り上げて説明し、臨時休校時などに役立てるように案内を続けていく。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の発案等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:95%以上		
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	3:90%以上		
		【追加】配信メールを活用し、学校からの必要な情報を迅速かつ正確に伝える。また、学級からの学級通信や担任からの電話連絡を日々行う。	2:85%以上		

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。